

視点

先日、ある専門家がラジオ番組で、保育所などの入園に際しては事前に見学した方がよいということをコメントしていました。その人は、「電話で問い合わせをした時の対応でも園の雰囲気は分かりません。訪問した時に、保育者が子どもたちを大声で怒鳴っていないかとか、泣いている乳児をそのままにしているかとか、園の保育もしっかりチェックしましょう」とも言っていました。

保育の現場にいる私たちにとっては厳しい言葉ですが、当然と言えば、当然です。職業としての保育士や幼稚園教諭を、単に子どもたちを遊ばせていればいい楽な仕事であると考え人もいるという話を聞いたことがあります。最先端の保育現場を皆さんはご存じでしょうか。

近年、いろいろなところでエピソードという言葉が使われるようになりました。直訳すれば「根拠、証拠」という意味です。それは、保育の現場においても同じです。保育者がさまざまな研修を通して最新の保育理論や研究結果などを学んでいるのは、私の園に限ったことではないはず

です。この中で、皆さんはそうした子どもたちが通う施設で行われる「保育」や「教育」と

いう言葉から、どんなことを連想されますか。それぞれが独自の考えを持って施設を運営していますので、どの施設のどの保育・教育がいいと、一概には言えませんが、この数年、日本の



前橋市柏倉町

じょう 穰

ふか まち 深町

県保育協議会会長、赤城育心こども園園長

「遊び」で高まる能力

できない力のことを言います。例えば、自尊心、自己肯定感、自分をコントロールする力、コミュニケーション能力、協調性、共感する力、頑張り抜く力などがこれに当たります。幼い時期に認知能力を高めても、大きくなるにつれ、そのアドバンテージの影響はなくなっていくという研究結果もあります。

その「非認知能力」を高めるためには何が大切か。それは「遊び」です。読者には名だたる教育関係者がたくさんいらっしゃると思いますが、「遊び」、特に「遊び込む」ことの重要性について異論を唱える方は少ないのではないのでしょうか。子どもたちが興味関心を持って遊ぶことに集中し、その中で、友だちとの関係性を築いたり、疑問について調べたり工夫したり…。数値では計り知れない成長を遂げる背景には「遊び」が欠かせません。

最初の話に戻りますが、園を見学する場合には、そうした「遊び」の内容やそれに対する施設の考え方を聞いてみるのもお勧めです。

保育園、幼稚園、こども園は大切なお子さんが数年間を過ごす場所です。慎重になりすぎることはいけません。

みならず世界で注目されているのが「非認知能力」という言葉です。

認知できない、つまり、テストで測ったり数値化したり

【略歴】2003年から

園長。19年、県保育協議会会長に就任。いち早くこども園運営に乗り出したほか、地域子育て支援センターの運営に関わる。上智大学学卒。